

## つぎの 震災に備えよう

— コラム —

明治時代の『風俗画報』という雑誌が、1896(明治29)年の三陸大津波に関してしっかりと記録物を残していました。宮城県沖地震の周期が大体33年くらいで、だとすると1978年の地震からもう間もない、最悪の場合10mを超える津波が来るかもしれない、そういうことが言われていた2006年、『風俗画報』の現物を大船渡市立博物館からお借りしてスキャンをかけた75点



展示された明治三陸大津波の図版

リアス・アーク美術館 宮城県気仙沼市赤岩牧沢138-5  
Tel: 0226-24-1611 <http://www.riasark.com>

## 「想定外」ではありませんでした

リアス・アーク美術館 学芸係長・学芸員 山内宏泰さんに聞く(前編)



ほどの図版として展示、さらに津波の体験談や、すべて被害の場所が特定できる状態で残っている貴重な資料を、『描かれた惨状～風俗画報に見る三陸大海嘯の実態～』という企画展で地域の皆さんに紹介しました。「これは大変な注目を浴びるぞ」という予想を裏切り、入場者数は振るいませんでした。地域の人たちの関心の薄さに驚いた私は、明治三陸大津波を題材にした小説を書いて警鐘を鳴らそうと試みましたが、それも多少話題になった程度。そしてあの3月11日を迎えるわけです。

当日私はこの美術館の収蔵庫で仕事をしていて、地震が来て屋上に上がり実際に津波を見たとき思わず、「だから言ったのに」と漏らしました。そうしたら今度は「未曾有」とか「想定外」とかいう言葉が使われ出して、でも私としては過去にそういうことが起きていたのは知っていたから「未曾有」じゃない、それを基にかなり具体的に「想定」できていたことを何と

か伝えようともしてきました。友人たちは、企画展『描かれた惨状』を観ていたおかげで、「6mの津波が来る」と聞いた瞬間に展示されていた絵が頭に浮かび、「あれが起きるんだな」と、すぐにぜんぶ投げ出してとにかく避難したそうです。6mの津波が来ると思った時「ここにいれば大丈夫だ」と二階に残って流された人たちが相当いたと聞いています。6mというのは二階建ての屋根の頂点くらい。つまり、「6mの津波が来る」と言われて二階にいたらダメなんです。だけど、「家の天井って何mくらいですか?」って聞かれてすぐにピンと来る人はあまりいない、高さ何mとか深さ何mとかいう数字は、感覚として体で理解できないんです。ただ単に「津波が来るから逃げなさい」と言われても人は逃げません。なぜか? 命の危機を感じないからです。一番大事なのは、死ぬかもしれないと思うことです。そう思わせなければ、いくらデータを並べても意味がありません。(つづく) (聞き手=中川哲雄)

## 子どもと女性を支えたい! 本業の特徴を活かしたユニークな支援活動を展開

### 被災地で本当に求められていることは何か?を問い続ける

神戸に本社を置くP&Gジャパン。阪神・淡路大震災では、本社をはじめ、ほとんどの社員が被災したという。日本全国に製品を供給し続けるという企業の使命を果たすため、営業継続に全力を傾ける日々が続いた。一方で、会社として被災者への支援活動も行ったが、自身も被災している中、ボランティア活動を十分にできなかったことに悔いを残す社員もいた。

東日本大震災では、この借りを返すという思いで全社がひとつになった。3月14日には、緊急性の高い紙おむつと生理用品を積んだトラックが被災地に向かい、その後も刻々と変化する現地の需要に合わせてシャンプーや洗剤など、2013年2月までに1億3000万円相当の物資を届けた。石巻市でのがれき撤去作業には、多数の社員ボランティアが参加。復興支援に尽力すると同時に、現地のニーズ把握などの情報源ともなった。

会社全体としての支援ばかりではない。事業部単位で、いまできることは何か? というこ

も考えた。その結果実現したのが、洗剤部門の運営による「アリエール あなたにエールを。プロジェクト」だ。宮城県多賀城市、南三陸町、石巻市の避難所の洗濯物を預かり、山形県の作業場できれいに洗濯して返すというもの。化粧品部門も、被災者のケアを行う看護士たちにハンドマッサージやメイクアップなどの癒しの時間を提供した。

また、2012年には全国の3~5歳の子どもの持つ母親にアンケートを実施。被災3県では「子どもの生活に制限や我慢をさせている」「屋外で身体を動かす環境が減った」と答える母親が他県に比べ圧倒的に多かったことを受け、国際NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと連携し、「のびのび遊ぼう! おやこひろば」などのイベントを開催している。

「P&Gの被災者支援活動の底流にあるのは、社員一人ひとりの『被災者の役に立ちたい』という強い気持ち」(広報・渉外本部社会貢献活動リーダー 筒井ゆう子さん)。それは、社員の多くが激甚災害の被災者であったことと無縁ではない。ま



### 企業の 取り組み

「のびのび遊ぼう! おやこひろば」のひとこま。この他、東北の物産品を買うことで支える東北物産展(2011、2012、2013年)なども、社員主導で企画・実践している。

た、そうした活動は、自分たちの本業がこんなにも被災者の役に立つのだ、という社員の誇りにもつながっている。さらには、社外での活動で得られた「この会社にはこんな人がいたんだ」という発見。これらが社内の人間関係にも好影響をもたらしている。社会への貢献活動が、社員の成長を促し、社内の結束を強くするという副産物をもたらした好例といえそうだ。

#### P&G ジャパン

<http://jp.pg.com>

#### 東日本大震災に関するP&Gの取り組み

<http://jp.pg.com/shien>

## 編集後記

子供たちと若者たちを集めた第6号、いかがでしたか? 被災地に限らず、いまの子供たちが、どんな価値観を持ち、どんな生き方を選び、どんな社会を選び取るのか? その一部、あるいは多くは彼らを取り囲む大人たちのあり方、接し方にかかっています。いまさらながら、大人としての責任を痛感する次第です。(加藤久人)

## 発行継続のための寄付のお願い

一人ひとりが震災に備え、復興を支え合う。そのための無料の震災専門紙である小紙をご支援下さると幸いです。ご寄付頂いた際は、ぜひ下記編集部へご連絡先もお知らせ下さい。小紙を毎号お届けします。また、差し支えなければ寄付者各位のお名前をウェブサイトでご紹介いたします。

寄付  
する

以下いずれかにご入金ください 個人: 1口3,000円/年 法人・団体1口30,000円/年から。

[寄付先] ゆうちょ銀行総合口座 記号番号: 10000-82078551 口座名: 震災リゲイン  
ジャパンネット銀行 すすめ支店 普通 口座番号: 8283215 口座名: 一般社団法人震災リゲイン

# 震災リゲイン

## Press プレス

震災復興支援メディア 全国4万部配布  
発行元：一般社団法人 震災リゲイン 発行人：相澤久美 編集人：高木伸哉

編集部：〒106-0044 東京都港区東麻布2-28-6 Tel: 03-3584-3430 Fax: 03-3560-2047

特集 小さな生命、若い力

2面 ●あなたにもできる復興支援!  
●読者プレゼント

3面 ●チャリティ通販  
●読んで知る・備える

4面 ●未来の震災に備える情報



## かっこいい男を見に、 福島へ行こう

文=猪飼尚司

### ロメオ・パラディッツ

目指すは宝塚!? 福島を変えるためのゼロからの挑戦

現地  
レポート

喜多方や会津若松を従える西側の「会津」、東北第2の都市と言われるいわき市から海沿いを北に伸びる「浜通り」、そしてその間に挟まれた福島市を含む「中通り」と、福島県は大きく3つのエリアに分けられる。

「震災以前から、中通りには地域特有の文化や観光がないと言われていました」。そう語るのは、今年11月に福島市で舞台の旗揚げ公演を行うロメオ・パラディッツ(以下、ロメオ)のプロデューサー、佐藤健太さん(31歳)。飯館村で消波ブロックの製造業を営んでいた佐藤さんは、2011年5月に知り合いの多かった福島市に移り住んだ。

「中通りには復興支援のためにたくさんの方が集まってきてくれるのに、連れて行く場所もなければ、見せてあげられるものがない。ならば、自分たちで楽しいことをつくり、提供すればいいんじゃないか」

手段やきっかけはなんでも良い。とにかく福島に来てもらおう。その第一弾としてチャレンジしたのが演劇だった。

「舞台をやっているプロの方からすれば、『素人に何が出来る』と思われるでしょう。しかし、自分たちが立ち上がり、行動しなければ、この土地には後にも先にも何も残らないような気がして」

世界的に知られる宝塚歌劇団も、1913年の設立時は宝塚新温泉(後の宝塚ファミリーランド)への旅客誘致を目的に、わずか16人の少女でスタートしたという歴史を持つ。それが時代を経て、いまや宝塚=舞台と認識されるように、エンターテインメントは街自体のイメージを変える可能性をもっている。ロメオのメンバーが全員男性というのも、まさか宝塚を意識しているのでは……と勝手に想像してしまう。

「積極的に復興支援に参加するのは女性がほとんど。男だけの力で何が

できるのか。そこに挑戦したかった。『西の宝塚、東のロメオ』なんていうのは、夢のまた夢。確かなものを得るには、宝塚が歩んできた100年以上の時間がかかることは覚悟しています。いまは、舞台を見てちょっとでも楽しんでもらえたら。そして、また福島に来たいと思ってもらえたら。そのはじめての一步になれば嬉しいです」

こうして集まったのは、17歳から47歳まで総勢33名の男たち。手探りながらも次第に自覚が生まれ、周囲から激励の声が飛ぶようになった。ロメオの男たちは、自分たちがきっかけになって福島が変わるかもしれないという希望を胸に、2ヶ月後に控えた初公演のため、日々の仕事をこなしながら、週4回の稽古を重ねている。

ロメオ・パラディッツ旗揚げ公演  
11月16日(土)14時/19時開演(昼夜二部公演)  
福島市公会堂 問い合わせ:ふくしま新文化創造委員会  
Tel: 024-502-4530 e-mail: mail@func.tv  
<http://func.tv>

観劇に行く

舞台稽古の様子。演劇指導は、福島市の劇団、満塁鳥王一座で劇作家を務める大信ペリカンさんが行っている





の保養受け入れ先に送り出す「ふくしまキッズ」の活動は始まった。3年目の夏を経て、のべ約3000人に上る子供たちが参加した。「失われかけた子供らしさを取り戻してほしい。そして、野外活動で身につけた優しさとたくましさ、福島復興に活かしてくれれば」と実行委員会委員長の進士徹さんは語る。10年20年と支援し続けなくてはならない事業といえそうだ。

## 福島の子供たちの笑顔を守るために

[ふくしまキッズ (NPO法人あぶくまエヌエスネット)]  
<http://fukushima-kids.org> Tel: 045-243-3860

支援金を送る

東邦銀行 棚倉支店 普通  
 口座番号:574540 口座名:ふくしま  
 キッズ実行委員会実行委員長進士徹

フクシマの原発災害はいまだに継続中なのに、多くの地域では過去の事件扱い。現地でも放射能の恐怖を語ることはタブー視される。不安と閉塞感の中で暮らす子供たちを、短い期間とはいえ、線量の低い地域で何の憂いもなく思いっきり遊ばせたい。そんな思いから、福島の子供たちを長期休暇ごとに、北海道から四国、九州にいたる全国

あなたにも  
 できる  
 復興支援

## 被災地の“いま”を、子供の視点で発信

[石巻日日こども新聞 (一般社団法人キッズ・メディア・ステーション)]

<http://kodomokisha.net> e-mail: [info@kodomokisha.net](mailto:info@kodomokisha.net)



在英ボランティアの協力で全編英訳もされた(2013年6月号掲載)

石巻日日こども新聞は、宮城県石巻市の小学生～高校生が記事をつくらしている季刊新聞。避難先で周囲に気を使って過ごす子供たちが創造力を発揮できる表現の場をつくりたいという、代表の太田倫子さんの思いをきっかけに、2012年3月に創刊した。記事のアイデア出しから取材、執筆まで子供たちが行っている。見た目は普通の新聞と変わらず、内容もよい意味で子供らしからぬ記事が並び、

読み応えがある。中でも創刊号で中学生記者が市長へ行ったインタビューは、大人顔負けの取材ぶりが反響を呼んだという。社会が無意識に描く“子供らしさ”ではなく、自分たちなりに社会とまっすぐ向き合う姿勢が見えるのが、大人が読んでも面白い理由だ。復興期が終わった後も続く息の長いメディアを目指し、これからも地元から情報発信を続けていく。

サポーターになる

1口10,000円/年。同紙を各100部お届けします。  
 ご入金時は上記メールアドレスまでご一報ください。  
 七十七銀行 二日町支店 普通 口座番号:5589053  
 口座名:一般社団法人キッズ・メディア・ステーション

ボランティアをする

こども記者の活動、毎週土曜のワークショップ運営を補助してくれる方を募集中。問い合わせは上記メールアドレスまで。

足ながおじさんになる

仕事見学や地元への招待など、子供たちに貴重な体験をさせてくれる方を募集中。同紙にて記事化されます。

## 震災孤児を支える活動拠点を

[NPO法人子どもの村東北] <http://soscvtohoku.org> Tel: 022-748-6936

東日本大震災で両親を亡くした震災孤児は241人(厚労省25年度)。大半は親族里親の元で育てられているが、高齢世帯や仮設住宅における育てる側のストレス、子どもの孤立感へのケアが必要だ。孤児以外でも東北の児童相談所への相談件数は増加傾向にあり、全国で親と暮らせない子どもは47,600人に上る。子どもたち自身が「愛され、

守られている」と感じられる家庭環境を重視する「子どもの村東北」は、児童相談所や里親会と連携し震災孤児や親と暮らせない子どもに適切な里親と暮らす環境を提供していく。来春、仙台市に里親と子どもが暮らす「家」の建設が始まる。里親への支援、地域内での交流促進など、里親と、未来を担う子どもを支援する活動を広げている。



支援金を送る

通常の寄付のほか、毎年寄付を続ける支援会員も募集中(詳細は上記連絡先へ)。  
 ゆうちょ銀行 記号番号:02290-3-127151 ※他銀からお振込みの場合 二二九店 当座 口座番号:0127151/七十七銀行 新伝馬町支店 普通 口座番号:5835208/三井住友銀行 仙台支店 普通 口座番号:1816562 口座名:特定非営利活動法人子どもの村東北(ゆうちょ)、同理事長飯沼一宇(七十七、三井住友)

## 「等身大」の地元愛を小冊子に

[『気仙沼に生きる。』編集部]

<http://www.facebook.com/Kesenuma311nma>  
 e-mail: [kesenuma\\_ikt@yahoo.co.jp](mailto:kesenuma_ikt@yahoo.co.jp)



高校の同級生3人が自費出版した小冊子『気仙沼に生きる。』

宮城県・気仙沼高校の同級生だった女子大生3人が「気仙沼への思いを形に残して次の世代に伝えたい」と意気投合したのが2012年秋。それから半年近くで自費出版にこぎ着けたのが小冊子『気仙沼に生きる。』だ。「自分たちの気持ちを書くのでは自己満足で終わってしまう。むしろ他の人たちの考えを聞きたい」と、同級生や後

輩、知人ら11人に原稿を依頼。若い人たちの「等身大」の視点から震災や復興の課題が浮かび上がる文章が集まった。「東京からボランティアで来た人にも客観的に気仙沼の魅力を書いてもらった。すごく誇らしくて、自分の気持ちも整理できた」と編集の村上愛佳さん。各地の図書館や喫茶店に置かせてもらい、ネットも活用して口コミで反響が広がっている。第2号発行も予定。

冊子を読む

発行部数が限られるため、各地の図書館への寄贈やメディアでの紹介に協力できる方に配布中。希望者は上記eメール宛に連絡を。

### 読者プレゼント

以下ご記載のうえ、このページ右下に記載の編集部宛(ハガキ/Fax/e-mail)にご応募ください。

①希望プレゼント(A~Dのいずれかを記入) ②郵便番号・住所・名前・電話番号・性別・年齢 ③よかった記事のタイトル ④ご感想・ご意見

**A** 冊子「気仙沼に生きる。」5名 (提供:『気仙沼に生きる。』編集部)  
 地元出身者からボランティアまで様々な気仙沼への声が続けられる(本紙記事参照)

**B** 香りさんま一本塩焼風(2尾)5名  
 食卓のおかずにも! 手軽にさんまの塩焼を味わえます(本紙記事参照)

**C** 書籍「子どもはなぜ勉強しなくちゃいけないの?」1名 (提供:日経BP社)  
 識者8人が勉強の意味を伝える、子どもでも読める良書(本紙記事参照)

**D** 書籍「ある明治人の記録-会津人柴五郎の遺書」1名 (提供:中央公論新社)  
 激動の時代、それでも生き抜いた男の少年時代からの伝記(本紙記事参照)

**E** LED懐中電灯 20名 (提供:プラス株式会社ジョイントテックスカンパニー)  
 単三乾電池 | 本で点灯、軽量・小型・防雨形で携帯にも便利

※2013年12月20日締切。当選発表は発送をもって代えさせていただきます。  
 ※個人情報当選者への発送に使用させていただく以外、第三者への提供等一切行いません。

購入で  
応援しよう!

— チャリティ通販 —

## 還ってきた三陸の海の味

[いちご煮の缶詰] (岩手県洋野町)

アワビの上品な青みの潮汁に、鮮やかな黄色のウニが揺れる。朝露のなかの野いちごのように見えることから名づけられた「いちご煮」は、磯の香り豊かに漂う郷土料理です。水揚港も加工場も津波で流され生産休止していた人気缶詰が、ついに復活!

特選・いちご煮缶詰(三陸産のウニとアワビを使用、写真) 1缶(425g) **3,150円**  
いちご煮缶詰(南米産のウニとアワビを使用) 1缶(425g) **1,100円**

ご注文は⇒ 株式会社 <sup>こうはちや</sup> 宏八屋 Tel: 0194-65-5111 (月~金/9:00~17:00)  
Fax: 0194-65-5113 <http://www.kohachiya.jp>



## 名産“岩泉の岩魚”の新しい楽しみ方

[イワナの燻製茶漬け] (岩手県岩泉町)

販売先の宮城県が被災してイワナの出荷量が減少、さらに原発の風評被害で厳しくなった一次産業から六次産業への飛躍を目指して新しい特産品が生まれました。従来、廃棄するしかなかった養殖イワナの余りが試行錯誤の末に大変身。ほのかな燻製の香りとおつさり塩味は、お茶漬けでもおつまみでもパスタに和えてもいける!

一瓶(40g) **525円**

ご注文は⇒ 有限会社 田屋商事  
Tel: 0194-25-4019  
Fax: 0194-25-5288 (24時間)

## 独自製法! 旨みの詰まった三陸美食を手軽に食卓へ

[香りさんま一本塩焼風] (宮城県柴田郡)

旨みたっぷりの脂がのった気仙沼のさんまを丸々1尾、塩焼風にしました。水産加工業の復活を目指して開発した独自製法で魚の旨味をギュッと凝縮。常温でも、温めても骨まで美味しく味わえ、丁寧な内蔵処理で保存も効きます。ご飯のおかずや酒の肴として最適です。

1尾(約120g) **180円**

ご注文は⇒ はらから福祉会法人本部  
Tel: 0224-58-3443  
(火~土/9:00~18:00)  
Fax: 0224-54-4112



## 特産品同士が合体した東北新名産

[のだ塩サバ飯の素] (岩手県洋野町)

特産品である天然塩「のだ塩」の工房と三陸サバの加工場が津波全壊からやっと復活。やはり津波で被災した食品加工会社と道の駅が、この塩とサバでまったく新しい炊き込みご飯を開発しました。臭みのない風味豊かなサバの香りに驚くほど箸が進む。岩手県知事賞受賞!

2合用 **780円**

ご注文は⇒ 株式会社 長根商店  
Tel: 0194-67-3660 (月~金/9:00~16:00)  
Fax: 0194-67-3661 (24時間)  
<http://www18.ocn.ne.jp/~n-kinoko>

※表示価格はすべて税込です(送料別)。 ※ここに掲載されている飲食品(日本産)はすべて、放射性物質検査の結果が国の定める基準値以下のものです(2013年9月20日)。

## 「人生力」を育てる学びとは

子どもはなぜ勉強しなくちゃいけないの?

荒俣宏、内田樹、瀬戸内寂聴、板東眞理子、福岡伸一、藤原和博、茂木健一郎、養老孟司 8人の識者に聞きました

おたとしまさ著/日経BP社

**1,365円** お買い求めは⇒ お近くの書店で

子どもが勉強する理由を、子ども向けと大人向けに分けて答える一冊。世間の「識者の言葉」には、玉もあれば石もある。でも本書のメッセージはどれも、この世の中で「生き抜く力」と、周囲に助けられる「信認力」を身につける大切さを教えてくれる。苦境にあっても、遠慮なく人の助けを借りても、生き抜くことの大切がわかる。



## 時代を越え心に響く生き方

ある明治人の記録—会津人柴五郎の遺書

石光真人 編著/中央公論新社

**693円** お買い求めは⇒ お近くの書店で

戊辰戦争で母と姉が自刃した会津の少年・柴五郎の成長を綴る伝記。餓死寸前の生活をしながらも、故郷を薩長に踏みこまれた屈辱を前向きな力に変え、必死に生き延びる。上京後も下男として苦勞するが、偶然にも学資不要の陸軍幼年学校の募集をみつけ、陸軍大将にまでなる。故郷や大切な人々を失っても、なお生き続ける強さを教えてくれる。



読んで  
知る・備える  
— 書評ほか —

文=佐々木晶二

## 震災リゲインプレスとは

震災復興の中間支援を行う(社)震災リゲインの発行するフリーペーパー。被災地の産品を買う、イベントに参加する、支援金を送るといった普段できるちいさな復興支援の紹介と、いつ起こるかわからない次の震災に備える情報を届けます。ウェブサイト<<http://shinsairegain.jp>>もあります!

ご意見、情報もお待ちしています

一般社団法人 震災リゲイン 震災リゲインプレス編集部 e-mail: info@shinsairegain.jp  
〒106-0044 東京都港区東麻布2-28-6 Tel:03-3584-3430 Fax:03-3560-2047

参加・協力(五十音順): 相澤久美、猪飼尚司、岩室晶子、内田伸一、宇野求、NPO法人アートNPOリンク、加藤久人、川嶋直、公益財団法人いわて産業振興センター、小林奈央、菅原さくら、杉山昇太、関口威人、高木伸哉、中尾悠、中川哲雄、中谷正人、中野民夫、水野哲雄、山道雄太、吉田朋史、若松海